



広瀬浩二郎 ひろせ こうじろう (国立民族学博物館准教授)

自称「座頭市流フィールドワーカー」、または「琵琶を持たない琵琶法師」。1967年、東京都生まれ。13歳の時に失明。筑波大学附属盲学校から京都大学に進学。2000年、同大学院にて文学博士号取得。専門は日本宗教史、触文化論。01年より国立民族学博物館に勤務。現在はグローバル現象研究部・准教授。「ユニバーサル・ミュージアム」(誰もが楽しめる博物館)の実践的研究に取り組み、「さわる」をテーマとする各種イベントを全国で企画・実施している。最新刊の『目に見えない世界を歩く』(平凡社新書)など著書多数。



田中美登里

たなか・みどり(ラジオ・パーソナリティ)

東京藝術大学楽理科卒。放送各社で女性が初めてニュースを読むようになった1979年、TOKYO FMにアナウンサーとして入社し、90年からディレクターに。自分にとってのラジオの原点は幼稚園の頃からおもちゃにしていたテープレコーダー遊び。89年からボーダレスな視点で制作・出演している「トランス・ワールド・ミュージック・ウェイズ」では、東京のストリート・ミュージシャン取材した番組「泳ぐ楽園・東京版」でギャラクシー・ラジオ大賞、「小笠原:リンクする歌の島」では芸術祭放送個人賞を受賞。 <https://musicbird.jp/programs/twmw/>

斎藤弘美 さいとう・ひろみ

(ゆう・えんLLC代表/
高田瞽女の文化を保存・発信する会顧問)

2010年より「門天瞽女プロジェクト」を企画運営し、2015年上越市に開館した「瞽女ミュージアム高田」顧問としても活動。瞽女が拓いてくれた世界を、広瀬浩二郎の仕事シリーズへ引き継ぎ、「ユニバーサル」をテーマに新たな展開を企画。
<http://yuen-net.com>

第1部 講座 10:30~12:00 ※開場30分前

「伸体験! 耳から手が出る — 僕の『音無しくない』生活」

瞽女は各地を旅して、「目に見えない風景」を音と声で表現しました。彼女たちの杖はアンテナ、耳は集音マイクだったともいえます。受信した聴覚情報を体内で拡大・再創造する過程で瞽女唄が生まれたのです。あらためて瞽女唄に耳を傾けながら、受信と発信をキーワードとして、視覚障害者のライフスタイルの今昔について考えます。

第2部 ブラインドランチ 12:30~13:30 ※開場30分前

「新体験! 味覚・嗅覚を愉しむ」

〈無視覚流〉伝道師、広瀬先生のナビゲートによりアイマスクをして視覚を使わずに味わう...味覚・嗅覚・触覚を研ぎ澄ました新感覚の食事をぜひご体験ください。

第3部 ワークショップ 14:30~16:30 ※開場30分前

「震体験! 身体で聞く、身体を聞く」

視覚中心の世界で、聞こえているはずなのに聞いていないたくさんの「音」。「見ない」ことで、見えてくる(聞こえてくる)豊かで新しい「音の世界」に出会ってみませんか。講師は、世界のさわり方を伝授してくれる広瀬浩二郎と、「音」を感じるプロフェッショナル、田中美登里。「音にさわる」ことで広がる未知の世界を体験しましょう。

出演 広瀬浩二郎 田中美登里 (第3部のみ) 斎藤弘美 (司会)



2018年11月3日(土・祝)

料金 第1部 500円 第2部 1,500円(弁当代含む) 第3部 1,000円
※要予約・第2部参加希望の申込み締め切りは10月30日

●ご予約・お問合せ 一般社団法人もんてん(両国門天ホール)

Tel・Fax 03-6666-9491(電話は平日13~17時)

メール ticket@monten.jp

<http://www.monten.jp/20181103>

両国門天ホール

墨田区両国1-3-9 ムラサワビル1-1階

JR総武線「両国駅」西口から徒歩5分
大江戸線「両国駅」A4、5出口から徒歩10分
都営浅草線「東日本橋駅」から徒歩10分

